

令和2年度大野市スポーツ推進計画策定委員会（第2回会議録）

- 日時 令和3年3月15日（月）午後7時～8時40分
- 会場 エキサイト広場総合体育施設 会議室

1. 開会あいさつ（委員長）

2. 議事

進行 委員長

（1）計画策定までの委員会スケジュール（予定）について

⇒事務局から資料に基づき説明。

（2）市民等アンケート結果について

⇒事務局から資料に基づき説明。

（3）大野市スポーツ推進計画の骨子（案）について

⇒事務局から資料に基づき説明。

【委員長】基本目標の「スポーツを通じた健康の増進」は「スポーツ参画人口の拡大」に包括されると思うが、あえて特出ししている理由は何か。

【事務局】市では健康づくりのまちを重点プロジェクトのひとつに掲げていることから、健康づくりを目的とした取組みができるとよいと考えた。

【事務局】どのような教室があれば参加したいかという設問では、気楽にできるもの、健康増進のためのものという回答が多い。入口として気楽に健康増進ということが市民のスポーツに親しむ環境づくりとしてのキーポイントになるのではないか。それとスポーツをする目的にも、健康づくりや運動不足解消とする人が多い。切り口として「健康」をうたうことはいいのではないか。

【委員長】市民アンケート結果を見ると、運動・スポーツに必要性を感じている人がすごく多い。関心はあるが実施する手段が分からなかったり、開催されている教室・イベントなどの情報を知る手段がなかったり、そのへんがうまくつながっていないのではないかと感じる。スポーツをする人のすそ野を大きく広げるという意味ではそのリンクをうまくつなげていくということがとても大事だと感じる。

【委員】運動の嫌いな人、本当に動きたくないような人たちを対象に指導を依頼されたことがある。何にしようか迷ったが、動かなくていいですよと言った。イスに座ったまま、呼吸エクササイズを教えたりした。とにかく運動嫌いの人たちはハードルをすごく高く感じている。ハードなことばかりが運動ではなく、もっと気軽に感じてもらえればいいと感じた。どうしたらそういうことを認知させることができるかということ

をすごく思った。イスに座ったままでの指導に参加者からはこんな程度でいいのか、すっきりしたなどの意見があり、手軽にできる運動をあまり知らないことを感じた。そのような機会が必要であることを感じた。

【委員長】運動は大事だと漠然とした思いはあると思う。大事なことは続けることで、続けても苦にならないやり方を見つけてもらえると良い。

【委員】できることから始めることが大切な一歩である。

【委員長】教室などの情報はどのように発信しているのか。

【事務局】主に市報やHPで広報している。児童が対象の場合は、学校に案内をすることもある。市民の目にどれだけ触れているかという問題がある。年間予定を掲載するなど市報を有効に活用したい。

【委員】誌面のレイアウトが毎月同じで、目に留まりにくくなっている。

【委員】情報発信に限界がある。仕事をしている人のスポーツ参加を促す方法として、企業でスポーツ教室を開催するという手段もある。企業に動いてもらいスポーツを推進してもらおうと良いのではないか。そのための補助があるといい。奥越ふれあい駅伝に職場から参加するように、企業が参加しやすい部門があると良い。

【委員】「スポーツを通じた健康の増進」を分ける必要があるか。施策の内容的に「スポーツ参画人口の拡大」と重複するのでは。

【事務局】市の方針に合わせ健康づくりに特化した施策に取り組みたいという意図である。

【委員】生涯スポーツの推進も重要だが、競技力向上や子どものスポーツ活動の充実といった部分が手薄になってくる印象がある。

【事務局】競技力向上の取組は難しいと感じている。皆様からのご意見をお聞きしたい。

【委員】児童数が減っている。学校再編により、部活数が増えるのではないかと各競技団体が希望を持っていると聞いた。

【事務局】部活動を地域移行という話があるが、まずは指導者の育成が必要だと感じている。

【委員】単純に人数が増えて部活の数が増えるというものではないと思う。合併しても10年前の陽明・開成中学校より少ないのではないか。無くなった部活を復活させるのは難しい。現在、部活が少ない尚徳や和泉中学校の生徒にとっては、できなかったスポーツができるようになると思う。

【委員長】まずは芽を育てる、すそ野を広げることだと思う。生涯スポーツを推進しつつ、次の段階として競技力向上へ進むのが現実的。

【委員】誰でもまずは気楽に始めたいと思うのでは。走るならあそこで走ろう、自転車に乗るならあそこに行こうというような場所があると良い。

【委員長】アンケート結果をみると、マンパワー不足の解消が課題であるようだ。長期的展望でみると、すそ野の拡大が付け焼刃でない対策として必要かなと感じる。スポーツ人口を増やし、ボトムアップしていき、スポーツが好きになり興味を持ってやりたい競技に流れていくのが理想。スポーツに触れ始めた子どもたちが、10年後に中学生、高校生になった頃によく効果が出てくる。

【事務局】未就学児から体を動かせる子を増やすことが全国的流れ。幼稚園・保育園と連

携し、体を動かすことが楽しいということを伝え、しっかりと体を動かせる子どもたちを育てていくということが、10年先を考えたとき必要ではないかと考えている。アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を実施していくことが重要。ACPは、内容を見れば高齢者の健康づくりにも応用できる。

【委員長】幼稚園・保育園現場の先生方にACPがまだ浸透していない。体を動かして遊ばせたいが、どうやって遊ばせれば良いのかわからないという話を聞いた。情報提供をすると良い。

【委員】昔と比べて転んでケガする子どもが増えている。色んな運動をさせてあげたいと保育現場から聞く。小学校へ行っても中学校へ行っても同じである。みんスポクラブで色んなスポーツに触れることができるのはスポーツの入り口として良かった。

（4）その他

・市の機構改革について

⇒事務局から説明。

6. 閉会あいさつ（副委員長）